

1 構想の概要

- (1) 策定の趣旨（目的・将来像）
- (2) 各計画との位置づけ、期間
- (3) 対象区域

2 鎌倉市を取り巻く環境の変化

- (1) 鎌倉市の状況
- (2) 社会情勢・技術動向（ポストコロナ・ニューノーマルを加味）

3 基本理念・基本原則

4 スマートシティの推進体制

5 リーディングプロジェクト

移動・交通

地域・コミュニティ

福祉・介護

道路・インフラ

防災・減災

観光

申請・手続き

スマートシティで
まず組んでいく
対象領域

?

前回振り返り 問い：鎌倉らしいスマートな課題解決策は？

グループ1

市民による市民のためのコミュニティ
「鎌倉市民向けポータルサイト」

＜主人公だれ？＞
鎌倉市民と観光客
＜舞台はどこ？＞
防災、渋滞、市民生活 など

＜詳細＞
市民が好きな時に知りたい情報が得られるポータルサイト。情報は市民自らが投稿でき、全体へ共有される。特に緊急時には防災や避難情報を市や市民がリアルタイムで発信。渋滞や買い物情報等の日常に役立つ情報発信も実施。高齢者や障害者も使いやすいようにラジオと連携。デジタルをうまく活用しコミュニティ強化を図る。

グループ2

位置情報の共有で助けをすぐに呼べる
「助け合いQRコード」

＜主人公だれ？＞
鎌倉市民
＜舞台はどこ？＞
住宅地、市内

＜詳細＞
位置情報の送信で緊急時に助けを呼べるシステム。電柱やお地藏さん（鎌倉らしい）にIoT端末を設置し、緊急時はそれらのQRコードを読み取ることで自身の位置情報とSOS発信が可能。地域の支え合いを支えるテクノロジーとして地域密着の運用が可能かつ、観光客も使用可能。人通りの少ない地域で特に役立つのではないかな。

グループ3

価値観と課題を共有できる
「バーチャルママ・パパ友」

＜主人公だれ？＞
子育て世代
＜舞台はどこ？＞
つながれる環境、気軽に相談できる環境

＜詳細＞
ライフスタイルに合ったコミュニティを可視化。子育て中の悩みや、情報共有を同世代間で行うことができる。助けや助言を必要としているが、どんなコミュニティがあるか分からない世帯も多いので価値観や課題を共有する目的としても活用して欲しい。昨今はコミュニティの希薄化が進んでいる人が「つながる」場の需要は逆に増えているのではないかな。

グループ4

誰も取り残さない
繋がりを感じる
スマート回覧板

＜主人公だれ？＞
鎌倉市民
＜舞台はどこ？＞
オンライン・オンサイト

＜詳細＞
一元化された情報を市民がアクセスできる電子回覧板。情報が一元化されSNSやメール、プッシュ通知等を通じて情報が得られる仕組み。従来回覧板を回付する際に発生したコミュニケーションから生まれる“つながり”をスマート回覧板でも反映させ、障害者や高齢者等、誰も取り残さず誰もが全体を巻き込める情報発信を行う。

グループ5

世代間の交流を生み出す
「近所シェアガーデン」

＜主人公だれ？＞
子育て世代、高齢者
＜舞台はどこ？＞
近所

＜詳細＞
空き家や使用されていない庭（主に高齢者の一人世帯等）を解放し、世代間の交流の場所として活用。近所のつながりを促進させ、有事の際の共助、地域の困りごとの解決につながる。そのため地域としての魅力が向上する。子供の遊び場としても活用できれば子供と高齢者の交流も拡大。

グループ6

多世代のとの
つながりを増進
「情報はどう伝えるかに着目」

＜主人公だれ？＞
鎌倉市民
＜舞台はどこ？＞
他世代との交流

＜詳細＞
情報の伝え方として、テクノロジー重視ではなく、人間の感情を尊重した共有や共感できるツールを整備。伝えたい情報が日常生活の見えないところにあることが多く、周知が測れていない。世代間の情報格差やデジタルデバイドを解消するため手段ではなく情報コンテンツから考えた方が良さ。

前回のアウトプットの共通項・対象領域

安全安心・コミュニティに着目

前回の市民対話のアウトプットを分類すると、安全安心、コミュニティに関するものに分けられた。

○：安全安心

○：コミュニティ

グループ1	グループ2	グループ3
市民による市民のためのコミュニティ 「鎌倉市民向けポータルサイト」 <主人公だれ?> 鎌倉市民と観光客 <舞台はどこ?> 防災、災害、市民生活 など <詳細> 市民が好きな時に知りたい情報が得られるポータルサイト。情報は市民自らが投稿でき、全体へ共有される。特に緊急時には、災害避難情報を市や市民がリアルタイムで発信。災害や買い物情報など、日常生活に役立つ情報発信も実施。高齢者や障害者も使いやすいように、音声と連携。デジタルをうまく活用し、コミュニティ強化を図る。	近隣住民の共有で助けをすぐに呼べる 「助け合いQRコード」 <主人公だれ?> 鎌倉市民 <舞台はどこ?> 住宅地、市内 <詳細> 位置情報の送信で緊急時に助けを呼べるシステム。地震や火災発生時、「鎌倉さん」に10分待ちを待機し、緊急時には、QRコードを読み取ることで自身の位置情報とSOS発信が可能。近隣住民と助け合いを支えるテクノロジーとして地域密着の運用が可能。被災時にも使用可能。人通りの少ない地域で特に役立つのではないかと、	祖父母と孫を共有できる 「バーチャルママ・パパ友」 <主人公だれ?> 子育て世代 <舞台はどこ?> つながれる環境、気軽に相談できる環境 <詳細> ライフスタイルにあったコミュニティ可視化。子育て中の悩みや、情報共有を同じ世代で行うことができる。助け合いが必要としているが、どんなコミュニティがあるかわからない世代も、同じく悩みや課題を共有する目的としても活用して欲しい。昨今のコミュニティの希薄化が進んでいる人がつながる場の創出は急務ではないか。
グループ4	グループ5	グループ6
誰も取り残さない繋がりを創出 スマート回覧板 <主人公だれ?> 鎌倉市民 <舞台はどこ?> オンライン・オンライン <詳細> デジタル化された情報を市民がアクセスできる電子回覧板。情報一元化されたSNSやメール、プッシュ通知等を通じて情報が届く。近所、近所、近所を回覧する際に発生したコミュニケーションの生み出されるつながりをスマート回覧板でも反映させ、障害者や高齢者、若年層も取り残さず全員が参加できる情報発信を行う。	世代間の交流を生み出す ご近所シェアガーデン <主人公だれ?> 子育て世代、高齢者 <舞台はどこ?> ご近所 <詳細> 空き家の活用、使用されていない庭（主に高齢者の一人世帯等）を解放し、世代間の交流の場として活用。近所、つながりを促進させ、有事の際の互助、地域の困りごとの解決につながる。そのため地域としての魅力が向上する。子供の遊び場として活用できる。子供と高齢者の交流も拡大。	多世代のつながりを創出 情報をどう伝えるかに着目 <主人公だれ?> 鎌倉市民 <舞台はどこ?> 他世代との交流 <詳細> 情報の伝え方として、テクノロジー重要ではなく、人々の感情を尊重し、共有、共感できるツールを整備。伝え、情報で日常生活の発見などにつながることを多く、認知が得られている。世代間の情報格差やデジタルデバイドを解消するための手段ではない。デジタルから考えた方が良い。

アンケート調査

リーディングプロジェクトの対象領域

1

共生社会の実現に向けたスマートシティ の推進に関する意識・価値観調査

1. 調査地域 鎌倉市全域
2. 調査対象 満 18 歳以上の市民
3. 調査対象数 4,000 人
(各 2,000 人の A グループ / B グループ)
4. 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
5. 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答
・満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答

2

意見募集

1. 調査対象：市内在住・在勤・在学の方
2. 募集期間：2021年9月1日～9月15日
3. 応募総数：53件
4. 調査方法：e-kanagawa アンケート（インターネット）

共生社会の実現に向けた スマートシティの推進に関する意識・価値観調査

スマートシティを推進するに当たって、ICTを活用してほしい分野・日々課題を感じている分野
※1つ選択（n=1,188）

調査結果

市役所・安全安心・ヘル
スケア（医療・介護）へ
の要望が高いことが分
かった。
これらに続き、移動、
子育て・義務教育、自然
環境などが並んだ。



意見募集

スマートシティで解決していきたい地域の課題・日々の課題 ※複数選択（n=53）

調査結果

市役所、ヘルスケア、移動、子育て・義務教育、への要望が高いことが分かった。これらに続き、安全安心、自然環境、地域のつながりなどが並んだ。



出典：鎌倉版「スマートシティ」意見募集

災害対策・気候変動

- 豊かな自然環境は鎌倉の魅力。近年、大規模な土砂災害や停電が発生。両立困難
- 地震発生から10分程度で津波が海岸に到達



自然と共生したスムーズな
避難誘導・防災体制が課題

交通渋滞・オーバーツーリズム

- 年間2000万人近い観光客。慢性的な交通渋滞が発生。市民生活に大きな影響
- 公共交通・緊急自動車の遅延。移動困難・買い物不便



市民生活と観光が共生した
スムーズな移動環境が課題

人口減少・少子高齢化

- 市全体の高齢化率は約31%。50%近い場所も存在（6か所）
- コミュニティの希薄化。人手不足。交通不便・移動困難など様々な課題を誘発



医療・買物等への
スムーズなアクセスが課題

令和4年度に取り組むプロジェクトの対象領域（リーディングプロジェクト）

第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画
（分野横断的に重点施策をとりまとめ）

検討・抽出プロセス

リーディングプロジェクト

目指すまちの実現につながる事業

- ①「強靱（レジリエンス）なまち」の実現につながる事業
- ②「環境負荷低減のまち」の実現につながる事業
- ③「長寿社会のまち」の実現につながる事業
- ④「働くまち」の実現につながる事業
- ⑤「住みたい・住み続けたいまち」の実現につながる事業

市民対話

アンケート

重点事業

まず、令和4年度は

- ・ 防災・減災を起点とした複数分野の連携
- ・ 市民目線の暮らしやすさ

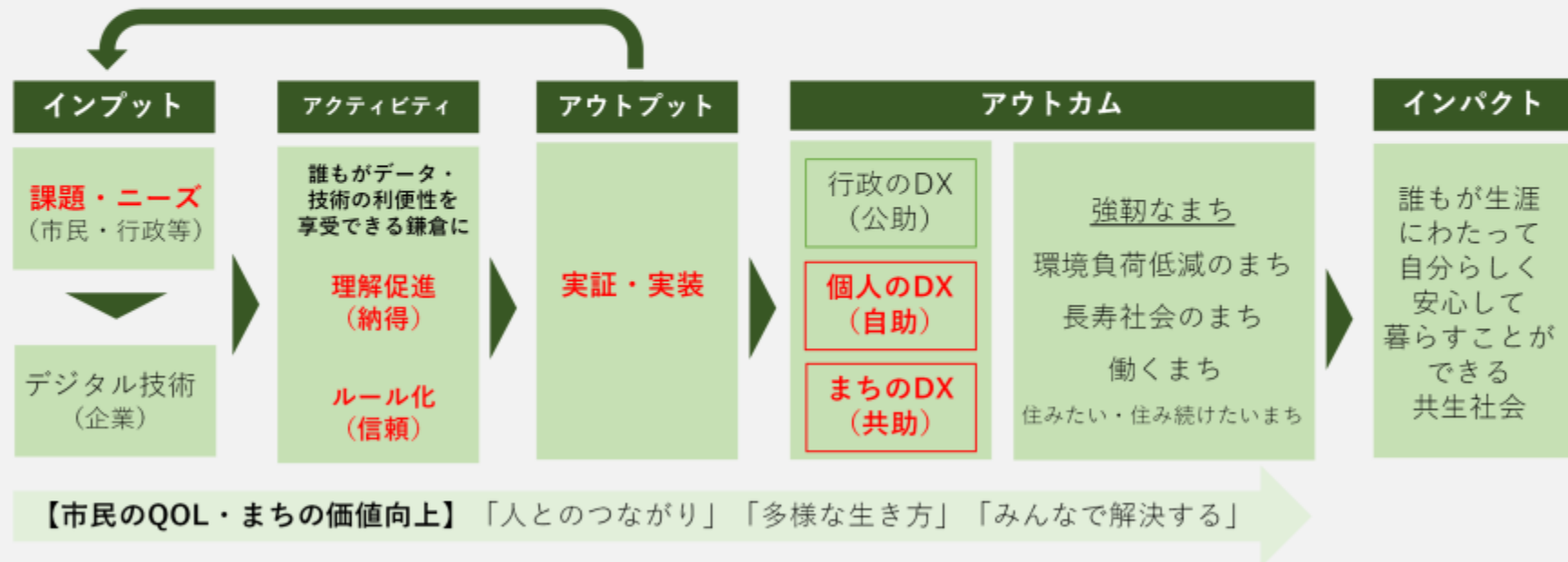
をテーマとした、実証事業を
鎌倉のスマートシティで展開

行財政運営の適正化につながる事業

市役所のデジタル化
(DX)

スマートシティの推進フロー

データの蓄積・統合・分析・利活用



市民参加型スマートシティを目指して

